

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学びを深める児童の育成

～個別最適な学びにつながる教育活動を通して～

2. 主題設定の理由

【学習指導要領より】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指す」
《小学校学習指導要領（平成29年3月告示）P.17【総則】》

新学習指導要領の一文である。まずは「主体的に学ぶ児童」を育成するという考え方を基本として研究を進めていく。

【2021年の中教審答申より】

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、いっそう不確かで予測困難な時代になり、学校現場でもその生活様式が一変した。それに伴い、社会全体におけるデジタル化の必要性も顕著になった。GIGAスクール構想も昨年で一気に加速し学校における授業スタイル、家庭学習のスタイルまでもが急速に変わりはじめている。

2021年1月の中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の中でも次のように述べられている。

「予測困難な時代」であり、新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められていると言えよう。

コロナ禍における学校教育においては、新学習指導要領に謳われている「主体的・対話的で深い学び」の実現がより一層求められていることを、上記の文面から読み取ることができる。

また、「個別最適な学び」においては「指導の個別化」と「学習の個性化」に分けて記述されている。

全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

以上「指導の個別化」「学習の個性化」を教師の視点から見ると「個に応じた指導」となり、それを学習者（子ども）から見ると「個別最適な学び」となる。また、「個別最適な学び」にはICTの活用も推奨されているが、「孤立した学び」に陥る危険性も含まれている。そのため、答申では以下のように続いている。

さらに、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

「協働的な学び」とはクラスメイトや異学年の子どもたち、地域の方々や専門家の方など、様々な考えや知識を持つ人たちとの交流から生まれるものを指している。

文科省の示すイメージ図からも分かるように「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっていく。予測困難な時代を生き抜くためには、子どもたちが自分で考え、他者とのつながりや対話の中でより自分の考えを深め、行動していくことが必要である。「令和の日本型学校教育」の目指す「個別最適な学び」「協働的な学び」は、これからの時代に求められる学びであると言える。

【本校の校内研究より】

本校の校内研究は、「主体的に学ぶ（学びに向かう）児童」「柔軟に考える児童」の育成等を目指し、対話の方法や効果的な教材・教具の開発を中心に授業改善を目的とし、研究を重ねてきた。今までの研究の成果としては、「見通す・学び合う・振り返る」という学習スタイルの定着、「対話の系統的指導」「対話のスキルトレーニング」の継続的な指導と児童の対話スキルの向上等を挙げることができる。児童は自己内対話や他者との対話を通し、主体的に考え、自分の考えを広げたり再構築したりすることができるようになってきた。

本年度は、研究主題を「主体的に学びを深める児童の育成」とした。学校生活や学級経営など様々な教育活動の基本は授業であり、授業改善は全教職員が児童のために継続的に取り組むものである考える。まずは、授業改善を目的とした研究を進めていく。また、今までの研究では「主体的に学びに向かう児童の姿」を見据えてきた。本年度もその考え方を基本とし、児童一人一人が学びを深めるとこのできる教育活動（授業等）の在り方や方法等を探っていきたい。

副題として「個別最適な学び」を加えた。前述のように「個別最適な学び」には「指導の個別化」「学習の個性化」に分けることができるが、‘思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強

く学習に取り組む態度’など本校が行ってきた研究に一致するものがある。また、「個別最適な学び」と一体的に進める「協働的な学び」には‘子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する’という対話につながるものもある。対話に関しては、「対話の系統的指導」「スキルトレーニング」を用いるとともに、指導者が対話をどう活用するかにも注目したい。また、「児童一人一人が学びを深める」と先に記述したが、(個に応じた)指導に焦点を当てる場合、本校の特色の一つでもあり、昨年度も積極的に取り組んできた特別支援教育の充実も欠かせないものとなるだろう。

大きく研究内容を変更するのではなく、今まで積み上げてきたものを継承・発展させていくことで、更なる授業改善につながっていく。

最後に、「個別最適な学び」に必要な考え方として先の答申には以下のことも含まれている。

子供が ICT を日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。

昨年度の反省にもあるように、ICTの活用も研究に取り入れたい。「個別最適な学び」のみならず、これからの時代を生きていく児童にとって必要なスキルであり、授業改善にも必要不可欠なものとなっていくだろう。

「重点目標」と「手立て」

「研究主題」を達成するための「重点目標」を設定する。授業研究を進める際には、常に「重点目標」を意識するとともに、その目標に迫るための「具体的な手立て」を各授業に設定し、成果と課題を挙げ次の授業に生かす。

重点目標①「児童が主体的に学びを深めるための教材・教具の工夫」

(手立ての例) 意欲を喚起させる学習課題、分かりやすい・効果的な教具、ICTの活用 … 等

重点目標②「児童が主体的に学びを深めるための手段の工夫」

(手立ての例) 意図的な発問、学習形態、対話の活用方法 … 等

3. 研究内容

「深い考えとは」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「自己内対話」と「他者との対話」

「ICTの活用」、「特別支援教育の充実」

(その他)

- ・教材提示・課題設定・発問等の工夫
- ・各教科(国語科・算数科等)における本校児童の実態と課題の把握
- ・校内または教室の環境整備や、教具づくり等の授業を支える取組
- ・ユニバーサル・デザインの継続的な取組 ・板書綴り(活動) ・家読、家庭学習の改善

○山梨県総合教育センター研究協力校

「学習障害のある児童への支援の充実に関する研究～アセスメント方法、指導方法及び教材教具の在り方について～」

- ・授業観察 ・適宜指導助言 ・山梨大学アドバイザーとの連携

4. 研究組織

- ・授業部会…①低学年ブロック ②中学年ブロック ③高学年ブロック
- ・専門部会…①授業支援部 ②環境整備部 ③ICT 支援部

※研究推進委員は、校長・教頭・教務主任・研究主任・授業部長（必要に応じて）とする。

※全職員が【専門部会】【授業部会】それぞれに所属する。

※各部の活動内容

- ・授業支援部…学習規律の確立、教材・教具づくり等に取り組む
- ・環境整備部…校内掲示の検討や作成、自学・家読の作成等を行う
- ・ICT 支援部…授業における ICT の効果的な活用と教材の収集などを行う
- ・授業部会は、低・中・高学年の3つに分かれ、研究授業等の検討を行う

※略案を用いて、互いの授業を見合う（ブロック研）の積極的な導入を行う

※日々の実践を見合う授業参観も継続して行う

5. 研究経過

4月 8日	研究推進委員会
4月11日	第1回校内研究会 昨年度・今年度の研究について
5月23日	第2回校内研究会 理論研究 「ICTの活用と情報モラルについて」 講師：山梨県総合教育センター【情報教育部】 中村 忠廣（副主幹・指導主事） 飯窪 優（指導主事）
6月27日	第3回校内研究会 理論研究 研究授業について（授業部会） 授業・環境整備部・ICT支援部の活動（専門部会）
7月25日	第4回校内研究会 理論研究 学習会「ICT研修会」（Microsoft Formsの使い方・プログラミング（的思考）の考え方・スクラッチの使い方） 授業部会・専門部会の活動
8月23日	第5回校内研究会 理論研究 学習会「教育課程環流報告、全国学調・CRTの結果と考察・ワードプレスの使い方」 授業部会 研究授業の指導案検討
9月26日	第6回校内研究会 理論研究（講師による授業参観） 講演会「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業の創造」 講師：北 俊夫（学校教育アドバイザー、一般社団法人総合初等教育研究所参与、元文科省初等中等教育局教科調査官）
10月 5日	第7回校内研究会 理論研究 授業部会 研究授業の指導案検討

10月24日	第8回校内研究会 研究授業 5年2組：家庭科（生活を支えるお金と物） 研究会 ※指導助言 坂本 久美（総合教育センター 副主査・指導主事）
10月26日	第9回校内研究会 研究授業 2年2組：算数科「かけ算（1）」 4年2組：算数科「変わり方調べ」 研究会 ※指導助言 渡邊 信也（総合教育センター 調査研究課 副主査・指導主事）
11月14日	第10回校内研究会 研究授業 3年2組：社会科「地いきの安全を守る」（「小学社会」3 教育出版） 研究会 ※指導助言 今津 義弘（中北教育事務所 主幹・指導主事）
11月28日	第11回校内研究会 研究授業 1年3組：国語科「せつめいする 文しょうを よもう」（「かざぐるま」光村図書） 研究会 ※指導助言 白倉 俊樹 先生（中北教育事務所 指導主事）
1月30日	第12回校内研究会 学習会 北杜市 ICT 活用研究会の環流報告 研究紀要の予定確認
2月27日	第13回 今年度のまとめ・研究紀要の発行にむけて